

(第1号様式)

# プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

2024年11月22日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

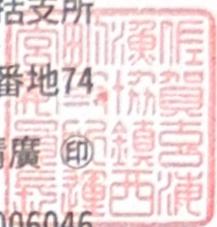
(代表申請者) 串浦の藻場を未来へ繋げる会

住所：佐賀県唐津市鎮西町串525番地1

氏名： 袈裟丸 彰蔵 

(共同申請者) 佐賀玄海漁業協同組合 鎮西町統括支所

住所：佐賀県唐津市鎮西町名護屋2番地74

氏名： 運営委員長 浦丸清廣 

法人番号：8300005006046

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	串浦の美しき藻場を未来へ繋げるプロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	対象海域(水深10m以浅)は藻場の状況として、2001年頃より磯焼けの進行が進んでいたが、ガンガゼウニを主とした食害生物の除去活動を継続した結果、2022年には活動当初と比較して大幅に磯焼けが改善し、2022年度のJブルー クレジット <sup>®</sup> 認証を取得。
クレジット取得理由	認証の取得を経て本プロジェクトに対してグループ全体の気運が更に高まり、水産資源の回復・気候変動対策の観点から温室効果ガスの吸収も担っている藻場の範囲を拡大するため、より広域的に活動することとした。
クレジット取得後の計画や見通し	本プロジェクトを遂行するにあたって、現状、水深10m以浅の藻場の状況を維持しつつ、水深15mまで藻場を一部改善することができているが、活動範囲を水深20m以浅までと考えていることから、潜水機材等の充実を図り、活動員の資格取得や各種研修会への参加など、今まで以上に効果的な活動を続け、温室効果ガス吸収源の更なる増大を目指すとともに、沿岸域の生態系を回復させることにも大きく寄与することを目指す。 また、漁業者の減少により活動規模の縮小が予想されるため、一般の参加者や企業との連携も視野にいれ活動の維持、継続を目指す。
申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料11参照(規約、年間計画)</li> <li>・年間計画を参考に漁業の隙間時間に手があいた漁業者で率先して保全活動を実施した。</li> </ul>
プロジェクト実施開始日	2010年4月～今現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻                  【藻場】ガラモ場                  【構成種】ホンダワラ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年06月02日～2024年06月01日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  5.25(ha)                  【面積の算定根拠】                  添付資料3を参照                  【面積の資料】                  添付資料3.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】                  2.7                  【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】                  昨年同様、文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照（添付資料2）                  【単位面積あたりの吸収量の資料】                  添付資料2.pdf</p>

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1  【算定結果（吸収量）】 14.175(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 85%  (面積：5.25(ha)×評価：85%)  【吸収係数の評価】 72%  (吸収係数：2.7×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 4.00(h) 【出力】 30.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO2排出量】 0.065(t-CO2)

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0.380052(t-CO2)</p> <p>(入力値0.621×面積の評価：85%×吸収係数の評価：72%)</p> <p>【設定した根拠】                  磯焼け当時の状況を証明する客観的証拠に乏しいが、2010年4月から始まった環境生態系保全活動時の調査データを元に策定した(添付資料6~8)。その結果、当時は1.31 t CO2/念の吸収量があったと推定された。また、2022年9月13日の対象周辺海域(食害生物駆除範囲外)を調査した結果、15mまでの水深において藻場がみられないことから、申請対象区域における食害生物除去活動の効果が明瞭に表れている(添付資料9,10)</p> <p>【資料】 添付資料6,7,8,9,10.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	8.23(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻                  【藻場】 アラメ場                  【構成種】 アラメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年06月02日～2024年06月01日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  4.17(ha)                  【面積の算定根拠】                  添付資料3を参照                  【面積の資料】                  添付資料3.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】                  4.2                  【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】                  昨年同様、文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照。（添付資料2）                  【単位面積あたりの吸収量の資料】                  添付資料2.pdf</p>

項目2	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 17.513(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 85% (面積：4.17(ha)×評価：85%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：4.2×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 4.00(h) 【出力】 30.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO2排出量】 0.065(t-CO2)

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0.308448(t-CO2)</p> <p>(入力値0.504×面積の評価：85%×吸収係数の評価：72%)</p> <p>【設定した根拠】 磯焼け当時の状況を証明する客観的証拠に乏しいが、2010年4月から始まった環境生態系保全活動時の調査データを元に策定した(添付資料6~8)。その結果、当時は1.31 t CO2/念の吸収量があったと推定された。また、2022年9月13日の対象周辺海域(食害生物駆除範囲外)を調査した結果、15mまでの水深において藻場がみられないことから、申請対象区域における食害生物除去活動の効果が明瞭に表れている(添付資料9,10)</p> <p>【資料】 添付資料6,7,8,9,10.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	10.345(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	18.5 t
------------------	--------